

第4回認定スポーツ・コンプライアンス・オフィサー（SCO） 事例検討会報告書

一般社団法人スポーツ・コンプライアンス教育振興機構

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-24-16 平和ビル 7F

Tel : 03-5521-2205 / Fax : 03-3581-2210

E-mail : info@spo-com.org / Web : http://www.spo-com.org/



開催日時	2022年11月19日（土）13:00～17:00
開催会場	学士会館 320号室（東京都千代田区）
参加者	認定SCO 20名
講師等	<p>【第1部】 特別講演 外部講師 1名（日本サッカー協会審判部 審判委員長 扇谷健司）</p> <p>【第2部】 話題提供 当機構理事 2名（春名真仁理事／永岡真理理事）</p> <p>【第3部】 SCOからの活動発表 SCO 2名（野田美智子 SCO／古川 彩 SCO）</p>
関係者	本機構理事 5名 / 事務局 3名 / (株)ユーミックス 1名
目的	各SCOが身近に見聞きしたり、実際に体験したスポーツのコンプライアンス違反事例について報告し、それを素材に討論を行い、事例分析と今後のコンプライアンス教育の方法・内容・在り方を検討すると共に、SCO 同士及び当機構役職員との交流を図る。

開催概要

当機構の基幹的事業の一つである「認定SCO事例検討会」の第4回目を、全国からSCO有資格者20名の参加を得て、コロナ感染拡大防止に留意しつつ対面形式で開催した。（司会進行：吉田真由美業務執行理事）



【開会挨拶】代表理事 武藤芳照 12:57～13:05



「本機構では女性理事の活躍を進めてきているが、今回のテーマは女性の活躍とコンプライアンスに焦点を当てている。スポーツの価値を守り育むという理念のもとに、指導者養成に取り組み、現在、SCO登録者は132名となっている。SCOの方々の活動充実の状況に鑑み、今後、SCO養成講習会講師への積極的登壇を推進して行きたい。また、学びや交流の効果を求めて対面式での開催としたが、多数ご参加いただいたことに感謝したい。さらに、機構発足時から副代表理事として活動された上柳敏郎氏が去る9月20日に逝去されたことは、実に無念であり、これまでの組織発展充実へのご尽力に心から感謝したい。」との挨拶を述べた。

【第1部】特別講演 13:08~14:00

「史上初のカタールW杯主審となる山下良美さんの活躍からみる、スポーツ界におけるインパクト」

講師 扇谷 健司 氏（日本サッカー協会審判部 審判委員長）



山下良美さんの国際舞台での活躍とスポーツ界へのインパクトについて審判委員長の立場から W 杯での活躍を願いつつ熱く語ってくださった。その概要は以下のとおり。

・現在、山下良美氏は女性審判の中心的人物となっている。氏の審判としての力量の向上には、本人の努力は勿論、（女性審判の育成に継続的に取り組む）日本協会審判部も相当のサポートを行ってきた。その過程で、国内・国際試合において男子選手や外国人選手、過熱しがちなサポーターのコントロールも出来るなど、著しい成長が見られるようになった。

こうした実績が認められて、（日本協会への事前通告もなく突然）今回の 2022 カタール WC の審判に、FIFA から直接選考された。日本サッカー界の国際的レベル評価の向上には大変よいことである。

山下氏の WC 審判員への選出は、女性審判員のモチベーションアップにもつながると期待され、さらには、メディアでの大きな取り扱い、取材の増大など、サッカー界のみならずスポーツ界における大きなインパクトである。

【第2部】話題提供

1. 「史上最高位を獲得したスマイルジャパン（女子アイスホッケー代表）コーチがみる、女子チームビルディング」（動画） 14:08~14:28

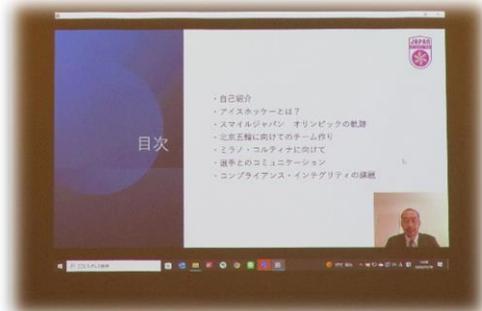
講師 春名 真仁 氏（当機構新理事/日本代表ゴールキーパーコーチ/JOC ナショナルチームコーチ）

女子アイスホッケー日本代表チームのコーチとして、女子のチームビルディングの在り方など、経験に基づいて具体例を挙げながら話題を提供した。その概要は以下のとおり。

チームビルディングに当たっては、先ず、2022 北京五輪の目標として、「五輪に出場する」から「五輪で勝つ」・「メダル獲得」へと意識を変化させることから始めた。選手には、得点効率やパワープレー成功率などを示して意識向上に努めた。その結果、北京五輪後に世界ランキングは史上最高位の 5 位に上昇した。（2022 年世界選手権後は、7 位）現在、2026 年ミラノ・コルティナ五輪でのメダル獲得に向け、「世界選手権ベスト 4」を目指している。

選手とのコミュニケーションにおいては、誤解が生じないよう女子選手への様々な配慮を行うとともに、指導、選手選考に公平性を保持するよう行動している。

コンプライアンス・インテグリティの課題の一部として、ジェンダーの多様性に対する不寛容さや女性コーチの割合の低さが挙げられる。その改善策として、①コーチライセンスの普及、②地域コーチやジュニア選手に対するコンプライアンス・インテグリティ教育、③勝利至上主義ではなく勝利追求主義への転換などに取り組んで行くことが重要である。



2. 「女性がパラスポーツに参加、活躍するための課題」(動画) 14:29～14:51

講師 永岡 真理 氏 (当機構理事/株式会社マルハン/電動車椅子サッカー 元日本代表)

自身の障害の状況や電動車椅子サッカーとの出会いと活動実績・体験をもとに、競技の普及と女性の活躍の道筋について話題を提供した。その概要は以下のとおり。

電動車椅子サッカーにおける課題は、①競技の普及、②男女混合競技における(サポート)体制の強化、③障害レベル(程度)の差による影響—の3点から具体例を挙げて述べた。

その改善策として、以下の必要性を訴えた。

①については、競技を始めるきっかけ作り、継続できる環境整備、競技認知度向上中でも、女性選手・アスリートの獲得・推進

②については、女性特有の身体的な特性についての知識・理解に基づくサポート

③については、重度障害者の参加を可能にすることにより、理解と社会的価値を再認識

障害があっても、「夢や目標を持つこと」、「社会や人と繋がること」が大切である。今後の夢と目標は、電動車椅子サッカーをパラリンピックの正式種目にし、女性選手として活躍することである。



【第3部】SCOからの活動報告

1. 「夢が描ける協会へ」 15:06～15:27 (質疑応答: 15:22～15:27)

講師 野田 美智子 氏 (SCO/熊本県バスケットボール協会 総務委員長)

熊本県バスケットボール協会の改革に取り組んでいる現状について、苦労話を交えて報告した。その概要は以下のとおり。

日本バスケットボール協会の指示もあり、熊本県協会でもガバナンス体制の整備に努力している。県協会内部では、ガバナンスの意味、その必要性についての理解が思うように進まない状況もあったが、総務委員長として意識改革を求めて粘り強く、提案し続けた。その結果、漸くガバナンス案が理事会で承認された。



今後の課題と行動として、①ガバナンスコードの継続的整備(議事録の作成、継続的提案、改革の声を継続)、②仲間づくり(SCO資格取得者を毎年養成、コンプライアンスの継続的学習)に、諦めずに粘り強く、引き続き取り組む必要がある。

2. 「DeNA のスポーツ事業における女性活躍」 15:28～15:58 (質疑応答 : 15:48～15:58)

講師 古川 彩 氏 (SCO/株式会社ディー・エヌ・エー)



ディー・エヌ・エーの企業の理念に基づく、スポーツ事業における女性活躍の現状を報告した。その概要は以下のとおり。

ディー・エヌ・エーは、エンターテインメント領域と社会課題領域を両軸にして事業を展開し、その中で「スポーツの力で、“ひと”と“まち”を元気にする」ことを実現するための『スポーツ事業』を行っている。

スポーツ事業関連で活躍している女性には、横浜 DeNA ベイスターズのNPB 二人目の女性トレーナーやかわさき FM 社長などが挙げられるが、会社の方針としては、女性だからという目線ではなく、性別に関係なく役割が与えられ活躍していることが重要と考えられている。

ディー・エヌ・エーの「DNA」には、ミッション (企業使命) として、「一人ひとりに 想像を超える Delight を」を掲げている。(注 : Delight は、「驚き、感動、思いやり」の意味で使用)

共有価値観の一つとして、組織はフラットであり、役職はひとつの役割にすぎない、という考え方がある。そのため、多様な人材が活躍するための研修制度・人事制度がある。(例 : アンコンシャス・バイアス研修、ダイバーシティアンケート、病児や出張シッターサポート、育児休暇)

「性別や経歴に関係なく、多様な人材が活躍できる組織を目指すこと」、その中で、女性が活躍できることを求めている。



【 第 4 部 】 グループワーク 16:10～17:05 (発表 : 17:05～17:08)

参加者が A、B、C の 3 班に分かれ、各テーマに沿って、体験や情報に基づいて活発に議論が交わされ、その成果をまとめ、「スポコン提言 2022」として、ホームページで公表することとなった。

各グループの討議の概要は以下のとおり。

A グループ (ファシリテーター : 武藤芳照代表理事/山本 繁 SCO+吉田真由美業務執行理事)

テーマ「子どもや女性のイニシアチブ発揮のための環境づくり」

提 言

「一人ひとりの特性を大切にしつつ、だれもが活躍できる健全なスポーツの普及を！」



B グループ（ファシリテーター：中森邦男理事／椎野 茂 SCO）

テーマ「学校部活動の地域移行」

提 言

「外部指導者の資格・待遇を明確にし、教育機関・外部との連携の下、子どもファーストを念頭に、地域移行はじっくりと！！」



C グループ（ファシリテーター：櫻井康史理事・事務局長／伊藤 彰 SCO）

テーマ「コンプライアンス違反の事後措置」

提 言

「初動を大事に（熱い内に）プロセスを大事に 教育を大事に そして良くなるための機会（チャンス）である！！」



【 閉会挨拶 】 理事・事務局長 櫻井 康史 17:08～17:12

「参加者の皆さんの熱意で充実した検討会になったことに感謝したい。また、今後とも、共に学び合い SCO の更なる活動に結び付けていただきたい。スポコン機構としても皆さんと共に歩み、スポーツ・コンプライアンスの浸透に努力して行きたい。」と、感謝・期待・抱負を込めて挨拶した。

